

Title	近世都市飛騨高山の人口と家族：宗門改帳を史料として
Sub Title	Urban population and family in early modern Takayama
Author	岡田, あおい(Okada, Aoi)
Publisher	福澤基金運営委員会
Publication year	2022
Jtitle	福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究の最終的な目標は、近世都市の人口と家族を歴史人口学の手法を用いて解明することである。近世都市の歴史人口学的研究は数が少ない。その理由は、史料が残存していないことにある。しかし、飛騨高山には約100年間に及ぶ宗門改帳が保存されており、この史料を使って近世都市の研究をおこなうことは価値がある。</p> <p>史料はすでに1970年代前半に慶應義塾大学名誉教授故速水融先生のもとで撮影され、現在麗澤大学人口・家族史研究プロジェクト室（代表：黒須里美）に保管されている。故速水先生と麗澤大学人口・家族史研究プロジェクト室の許可を得てすべてマイクロフィルム（71巻・68914コマ）をデジタル化、紙焼き、簡易製本（492冊）をし、岡田研究室に保管した。</p> <p>本年の研究目的は、この紙焼きから基礎シート（BDS）を作成することであった。近世都市飛騨高山には、壱之町村、弐之町村、三之町村の宗門人別帳が残っている。各村は、それぞれいくつかの組に分かれていて、宗門改帳はこの組を単位として作成され、村単位で保存されている。基礎シートは、残存期間が最も長期に及び、しかも欠年の無い、弐之町村の宗門改帳から作成を開始している。『飛騨国高山弐之町村宗門人別帳』は享保3（1718）年、4（1719）年、そして安永2（1773）年からは明治4（1871）年までの99年分が連続して残っている。</p> <p>弐之町の基礎シートは、2020年度に作成を開始したが、史料は膨大であり、また記載内容も豊富であることが判明した。BDSに書き込めない情報を抜き出し、研究に必要な項目をメモ書きにすること、また、将来必要になる情報も項目に分け、その情報の所在を表にまとめながら、作業をおこなっている。本年度は天明8（1788）年から享和2（1802）年までの基礎シートを作成した。この間の世帯数は延べ1400である。</p> <p>The final goal of the present research is to clarify the population and families of the early modern city by using the methods of historical demography. There has been little research into the historical demography of the early modern city. However, shumon aratame cho(SAC, "religious inquisition registry books") for over approximately 100 years have been maintained in Takayama. These valuable historical records were converted to microfilm by the late Professor Emeritus Akira Hayami of Keio University. Then, the late Professor Emeritus Yoichiro Sasaki of Chiba University analyzed this SAC.</p> <p>In the present research the plan is to perform the basic work of creating basic data sheets (BDS) from digitized SAC of Takayama. Now we are creating BDS by using the SAC of Ninomachimura, which among these historical records have been preserved for the longest time.</p> <p>This year, we create BDS from Tenmei 8 (1787) to Kyowa 2 (1802). The total number of households during this time is 1,400.</p>
Notes	申請種類：福澤基金研究補助
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-20210002-0006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	1,439 千円
	氏名	岡田 あおい	氏名 (英語)	Aoi Okada		
研究課題 (日本語)						
近世都市飛騨高山の人口と家族 ―宗門改帳を史料として―						
研究課題 (英訳)						
Urban Population and Family in Early Modern Takayama						
研究組織						
氏名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position				
岡田あおい (Aoi Okada)		文学部				
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究の最終的な目標は、近世都市の人口と家族を歴史人口学の手法を用いて解明することである。近世都市の歴史人口学的研究は数が少ない。その理由は、史料が残存していないことにある。しかし、飛騨高山には約 100 年間に及ぶ宗門改帳が保存されており、この史料を使って近世都市の研究をおこなうことは価値がある。</p> <p>史料はすでに 1970 年代前半に慶應義塾大学名誉教授故速水融先生のもとで撮影され、現在麗澤大学人口・家族史研究プロジェクト室(代表:黒須里美)に保管されている。故速水先生と麗澤大学人口・家族史研究プロジェクト室の許可を得てすべてマイクロフィルム(71 巻・68914 コマ)をデジタル化、紙焼き、簡易製本(492冊)をし、岡田研究室に保管した。</p> <p>本年の研究目的は、この紙焼きから基礎シート(BDS)を作成することであった。近世都市飛騨高山には、壺之町村、弐之町村、三之町村の宗門人別帳が残っている。各村は、それぞれいくつかの組に分かれていて、宗門改帳はこの組を単位として作成され、村単位で保存されている。基礎シートは、残存期間が最も長期に及び、しかも欠年の無い、弐之町村の宗門改帳から作成を開始している。『飛騨国高山弐之町村宗門人別帳』は享保3(1718)年、4(1719)年、そして安永2(1773)年からは明治4(1871)年までの99年分が連続して残っている。</p> <p>弐之町の基礎シートは、2020 年度に作成を開始したが、史料は膨大であり、また記載内容も豊富であることが判明した。BDS に書き込めない情報を抜き出し、研究に必要な項目をメモ書きにすること、また、将来必要になる情報も項目に分け、その情報の所在を表にまとめながら、作業をおこなっている。本年度は天明8(1788)年から享和2(1802)年までの基礎シートを作成した。この間の世帯数は延べ1400 である。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The final goal of the present research is to clarify the population and families of the early modern city by using the methods of historical demography. There has been little research into the historical demography of the early modern city. However, shumon aratame cho(SAC, "religious inquisition registry books") for over approximately 100 years have been maintained in Takayama. These valuable historical records were converted to microfilm by the late Professor Emeritus Akira Hayami of Keio University. Then, the late Professor Emeritus Yoichiro Sasaki of Chiba University analyzed this SAC.</p> <p>In the present research the plan is to perform the basic work of creating basic data sheets (BDS) from digitized SAC of Takayama. Now we are creating BDS by using the SAC of Ninomachimura, which among these historical records have been preserved for the longest time.</p> <p>This year, we create BDS from Tenmei 8 (1787) to Kyowa 2 (1802). The total number of households during this time is 1,400.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			